

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									2.6
Q1 室内環境					0.33				2.6
1 音環境				1.8	0.15	-	-		1.8
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				1.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		-		1.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能		-		1.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	-	-		
1.3 吸音		-		1.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				2.7	0.35	-	-		2.7
2.1 室温制御				3.2	0.50	-	-		
1 室温		-		3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能		外壁・屋根U=1.0以下		4.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性		-		3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		-		1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		-		3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				2.6	0.25	-	-		2.6
3.1 屋光利用				1.8	0.30	-	-		
1 屋光率		-		1.0	0.60	-	-		
2 方位別開口		-		-	-	-	-		
3 屋光利用設備		-		3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 屋光制御		-		3.0	1.00	-	-		
3.3 照度		-		3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		-		3.0	0.25	-	-		
4 空気環境				3.1	0.25	-	-		3.1
4.1 発生源対策				3.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		-		3.0	1.00	-	-		
4.2 換気				2.6	0.30	-	-		
1 換気量		-		3.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が事務室床面積の1/15以上		4.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		-		1.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		-		3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		敷地内全面禁煙		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.0
1 機能性				3.0	0.40	-	-		3.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		-		3.0	0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応		-		3.0	0.33	-	-		
3 バリアフリー計画		-		3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		事務室の天井高さ2.70m		4.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上		4.0	0.33	-	-		
3 内装計画		-		1.0	0.33	1.0	-		
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		-		3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.8	0.30	-	-		2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		事務所:床タイルカーペットt6.5(OA707-H100)、壁ビニルクロス貼り(PBt12.5)、天井化粧石膏ボードt9.5(PBt9.0)		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				1.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		-		1.0	0.20	-	-		
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		-		1.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		-		1.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.2	0.30	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり			3.8	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		-	3.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率 0.1以下	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		-	3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		-	3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.37	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		-	2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.68	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			2.7	0.50	-	-	2.7
集合住宅以外の評価			2.7	1.00	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		-	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水		-	1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		-	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減		-	2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		壁・天井部にLGSを採用して、躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。OAフロアも採用している。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		-	3.0	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50	-	-	
3 冷媒		-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクル排出率80%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止		-	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		-	2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		-	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音		-	3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	1.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		-	-	○	-	-	○	○	-	○	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0		-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	1.0		-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		1.0	2.0	-	1.0	-	-	-	-	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	-	2.0	3.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC 0.8 窓の日射熱取得率(η) 0.7 U値(W/m2K) 窓システム 6.1 屋根 0.4 外壁 0.7 床 2.7 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 0.0%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 8.2%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 6.3㎡/人/人 病床 0.0㎡/床 シングル 0.0㎡ ツイン 0.0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.7 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 2.2% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 0 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 3.5 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 9.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 16% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 20% 水平投影面積率 8% 地表面対策面積率 11% 舗装面積率 60%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.68 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0% 通風を満たす教室数 80.0% 通風を満たす住戸数 80.0% 太陽光 0.0kW 太陽熱等 0.0kW 蓄電池 0.0kW
3 設備システムの高効率化 非住宅部分 集合住宅の評価	BEI/BEI _m 再エネ有 0.64 無 0.64 オフサイト再エネ有 - - 一次エネ削減率 再エネ有 無 -
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 44% 隣棟間隔指標R _w 0.40 地表面対策面積率 11.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積S _b 40,000㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s 200 m 基準高さH _b 450 m 緑地 967㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡